

ぐりふぁん letter



Vol.
43
2022.2

INDEX

- ◆ 市民再エネプロジェクトin京都2021福祉×防災×おひさま発電所
～「福祉避難所」におひさま発電所を！ . . . 2
- ◆ 福祉避難所から考える持続可能な未来社会
～未来を守るおひさま発電所の取組～ . . . 3
- ◆ 第1回 いきいき自然観察会 . . . 4
- ◆ カーボンフリーとEV . . . 5
- ◆ 2021年度 環境学習 おひさま発電所アンケート . . . 6
- ◆ 会員さん、こんにちは！
TOPIX 京都市出前トーク「福祉避難所を知っていますか？～役割・入所の流れ～」
編集後記 . . . 7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)



市民再エネプロジェクト in 京都 2021 福祉×防災×おひさま発電所

～「福祉避難所」におひさま発電所を！

2021年「おひさまプロジェクト」は、さらに多くの担い手が加わって「市民再エネプロジェクト」と衣替えしました。「市民」が主体となって「再エネ」を広げていきます。一人でも多くの「市民」の参加・協力を期待したいところです。



京都府地球温暖化防止活動推進センター（NPO法人京都地球温暖化防止府民会議）

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、京都府内の気候変動対策を様々な面からサポートし、それぞれの活動が一層活性化されるようにと各種団体と連携して活動しています。気候変動が進む中、再生可能エネルギーの普及は不可欠です。その普及も、市民が参加し、一緒になって自分たちの地域に広めていくことで、脱炭素社会に向けて愛着の持てる再エネの普及ができると考えます。市民再エネプロジェクトは、きょうとグリーンファンドが長年培ってきた市民参加のプロセスの経験を活かすこと、そして参加している各団体の強みを発揮することで、さらに多くの市民が参加し自分たちの手で設置を加速するプロジェクトへと成長する可能性があります。当センターでは、各団体と連携し、市民が再エネを進める本プロジェクトの一翼を担っていきます。

認定NPO法人 気候ネットワーク

気候変動問題に市民の立場から取り組んでいる環境NGO・NPOで、1998年4月に設立した全国のネットワーク組織です。ひとりひとりの行動だけでなく、産業・経済、エネルギー、暮らし、地域等をふくめて社会全体を持続可能に「変える」ために、地球温暖化防止に関わる専門的な政策提言、情報発信とあわせて地域単位での地球温暖化対策モデルづくり、人材の養成・教育等に取り組んでいます。これまで市民共同発電所の普及をめざして、担い手の育成、情報発信・交流、政策提言などに取り組んできています。「市民・地域共同発電所全国フォーラム」の事務局役も担ってきました。パリ協定の目標達成に向けて脱炭素、自然エネルギー100%の実現に取り組んでいます。

一般社団法人 市民エネルギー京都

脱原発・脱化石燃料で地球温暖化を防止することをめざして、市民参加と地域主体の再生可能エネルギー普及のために、京都で環境活動に取り組んできている個人・団体が連携して2012年に設立した団体です。これまでに、京都市、京都生協などとのパートナーシップで、市民共同発電所を設置・運営し、さらなる省エネ活動、再生可能エネルギー普及、環境教育、市民農園の応援、活動支援などを行ってきています。気候の危機を回避するためには、再生可能エネルギーの一層の普及が不可欠です。そのための市民再エネプロジェクトであり、多くの方々とつながり、より豊かで公平で平和な脱炭素社会づくりに貢献していきたいと想っています。

NPO法人エコネット近畿（特定非営利活動法人近畿環境市民活動相互支援センター）

NPO法人エコネット近畿（近畿環境市民活動相互支援センター）は、近畿をフィールドに市民や行政、企業等様々な人の持続可能な地域づくりの活動を、サポートし一緒に活動する団体です。とはいえ、今までどちらかというと、自然環境を守る活動団体との連携が多く、脱炭素社会に向けて頑張っている方々との連携が少ない傾向にありました。また、地域では「環境」と「福祉」が結びつき、環境活動が人々の幸せにも強く、長期的につながっていることを見える化することが求められています。そういった意味で、今回市民再エネプロジェクトで勉強をさせてもらいながら、再生可能エネルギーを広げることが、人々の暮らしを安心安全で心豊かにしていくことを一緒に伝えていきたいと思っています。

認定NPO法人きょうとグリーンファンド

きょうとグリーンファンドは2000年から毎年1～2か所のおひさま発電所をつくってきました。そしてできるだけ多くの市民に呼び掛けて寄付を集めることに、意味を見出してきました。これは寄付をすることで、再生可能エネルギーを広げていくことの意味を、それぞれが自分事として受け取ってもらいたいという思いからです。「多くの人が協力して、できた」市民共同発電所が「おひさま発電所」なのです。また、おひさま発電所が地域の身近な施設に広がって行くことは、市民が関って地域を変えていけるということでもあります。

福祉避難所から考える持続可能な未来社会

～未来を守るおひさま発電所の取組～

認定NPO法人気候ネットワーク 環境事業部長 広瀬 和代

2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言した日本においても、災害につよいまちづくりをどのように構築していくのかは重要な課題となっている。

◆深刻化する気候災害

2021年7月、静岡県や神奈川県を中心に大雨が降り、静岡県熱海市では土石流災害が発生した。それ以前にも、2020年7月には九州、西日本から東北地方にかけて記録的な大雨が降り、球磨川をはじめ多くの河川で氾濫が相次いだ。2019年8月は九州、10月は千葉県、福島県でも記録的な大雨となった。「これまでに経験した事のない・・・」「数十年に一度の・・・」という言葉が頻繁に聞くようになった。

気候変動に関する科学的分析や予測などをまとめる国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」第1作業部会は2021年8月、人間の活動が温暖化を引き起こしていることは「疑う余地がない」と初めて明記した第6次評価報告書を公表した。温暖化は世界中で熱波や大雨などの異常気象に影響を及ぼしており、化石燃料を大量に消費する状況が続けば今世紀末に(いつと比べて?)最大5.7度上昇する可能性があるという。もし地球が1.5℃温暖化した場合、アフリカとアジアのほとんどの地域で、大雨とそれに伴う洪水が激化し、またより頻繁に発生することは高確度であると示されている。

◆災害被害の深刻な高齢者と障がい者

共同通信が2020年3月に行ったアンケート調査によると、東日本大震災の被災地である岩手県、宮城県、福島県の自治体で「震災関連死」と認定された人のうち、障がい者の割合は24.6%に上っている。亡くなった方の約4人に1人が、障がい者だった。

自力での避難・生活が難しい高齢者や障がい者を、災害時にどのように支えていくかについては、いまだに明確な答えが出ていないのが現状だ。

◆福祉避難所とは何か？その課題

現在、国は各自治体に対して、高齢者や障がい者のような「避難行動要支援者」の避難を支援するために、「個別避難計画」を策定するよう推奨し、災害時に高齢者と障がい者が避難できる場所として、災害対策基本法に基づいて「福祉避難所」が設置されている。「福祉避難所」では、大勢の人が集まる一般の避難所での生活が困難な「要配慮者」を対象に受け入れを行い、生活上に必要な介護や生活支援を提供する。福祉避難所となる場所は、バリアフリー化された老人福祉施設や障がい者施設などで、事前に市町村が指定する。

福祉避難所はあくまで「二次的な受け入れ先」というのが、制度上の位置づけとなっていて、高齢者と障がい者は、まず一般の避難所に避難し、保健師などが健康状態を見極め、必要と判断された方のみが福祉避難所に移る。さらに、福祉避難所には要配慮者のための食糧、設備が確保されている必要があるが、施設によっては難しい場合もあり、体制の構築が急務となっている。そればかりではなく、そもそも福祉避難所は設置数が足りていないのが現状だ。

2015年に国連総会で採択された持続可能な開発目標・SDGsでは、「目標とターゲットがすべての国、すべての人々、及びすべての部分で満たされるよう、誰一人取り残さない」ことを原則としていることから、要配慮者が安心して避難できる場所を確保していくことは、社会全体で取り組んで行くべき必須の課題だ。

◆気候災害の時代、地域分散型エネルギーを

最近の日本では、被災からライフライン復旧までの期間が長期化するケースが増加してきている。今後想像もつかないほどの自然災害が複合的に発生する可能性がある。そこで、緊急時に大規模電源などからの供給に困難が生じた場合でも、地域において一定のエネルギー供給を確保することに貢献する地域分散型エネルギーが注目されている。分散型エネルギーシステムの構築は、地域に新しい産業を起し、地域活性化につながる。地域の特性を活かした再生可能エネルギーを活用することで、CO₂を排出削減に繋がるだけでなく、海外へ流出するエネルギー費を地域に循環でき、その費用で社会保障や福祉に還元し、福祉避難所を増やしていくことも考えられる。また、避難所となる公共の施設に、蓄電池と太陽光発電をセットにして設置するおひさま発電所の取組は避難所の生活の質(QOL)を高めることに貢献し、早期の復旧・復興に一助となるだろう。災害のリスクが高まる日本において、地域分散型エネルギーの構築が2050年CO₂排出ゼロに向けた取組を加速させると同時に人々の命や、子どもたちの未来を守る先進的な事例として更に広がることを願っている。



第1回 いきいき自然観察会



京都市上鳥羽北部いきいき市民活動センター エコグループ 北川 完二

野外活動に絶好の秋晴れの10月16日(土)、講師に京都精華大学名誉教授の板倉豊先生をお迎えして、上鳥羽北部いきいき市民活動センターのエコ活動として「第1回 いきいき自然観察会」を開催しました。

中唐戸児童館の子どもたちに加え、一般応募の地域の子どもたちと保護者、30名余りの参加者があり、日頃から見慣れた場所である上調子公園、コミュニティーガーデンohanaにおいて板倉先生の楽しいお話を聞きながら、植物の特徴や昆虫などの生態について学びました。

板倉先生の周りに集まった子どもたちが好奇心いっぱいに質問したり、お話を熱心に聞いている姿が印象的でした。そのお話は単に植物や昆虫の生態だけでなく、「カエデはカエルの手



に似ているのでそう呼ばれるようになった。」「カタバミで10円硬貨を磨くとピカピカになる。」「エノキは旅人の目印になる一里塚として江戸時代に植えられた。」など、子どもにも分かる親しみやすいお話や歴史的な背景も合わせた説明は、子どもだけでなく大人でも興味を持てる内容でした。

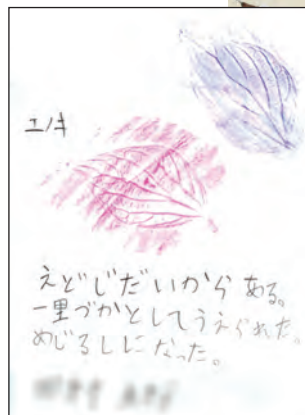
その後、採集した様々な葉っぱをセンターに持ち帰り、トレーシングペーパーに子どもたちが思い思いに色鉛筆で綺麗に葉っぱの形を描き出し、説明の言葉も加えて「自分だけの葉っぱ図鑑」を作りました。

最後に板倉先生から「これからも何事にも好奇心や興味を持ってください。」のお話がありました。

当日の子どもたちへのアンケートには、「楽しかった。」や「また行きたい。」、「植物に興味を持った。」などの意見がたくさんありました。また後日、保護者の方にいただいた感想にも「先生の草花や植物の



お話を子どもたちが一生懸命耳を傾けているのが微笑ましかったです。家で娘が公園で採集した葉っぱを色えんぴつで紙に描き出し葉っぱ図鑑を完成させました。次回もぜひ参加したいと娘も大変よろこんでいました。」や「子どもたちは、木に付く虫や木ノ実、葉の形、色などの事が知れてとても楽しかったそうです。大人でも興味を引く内容で、こんな近くの自然なのに知らない事だらけで勉強になりました。次回も楽しみにしています。」などの感想をいただきました。



今回の経験を活かし、テーマや季節や場所を変えて2回、3回と続けていって、自然のすばらしさ、自然環境の大切さ、エコ活動についての感心が子どもたちの心に少しでも育まれればと思います。

最後に講師の板倉先生をはじめ、ご協力いただいた児童館の先生方、きょうとグリーンファンドのスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

カーボンフリーとEV

認定NPO法人きょうとグリーンファンド 理事長

松岡 憲司

新年になって新聞(日経)では、ほぼ毎日電気自動車(EV)に関するニュースが掲載されています。エンジンから電気モーターへの変化は、日本の基幹産業である自動車産業の行方を左右する可能性が大きいからでしょう。しかし私たちの関心は、CO₂の排出削減効果です。国土交通省によると、運輸部門のCO₂排出量は2億600万トンで全排出量の18.6%を占めます。内訳をみると、自家用乗用車9458万トン、営業用貨物車4193万トン、自家用貨物車3390万トンとなっており、自動車からの排出は運輸部門からの排出量の86.1%、全排出量の16.0%となっています。現在の自動車のほとんどは、エンジンで化石燃料を燃やしてエネルギーを得ています。化石燃料を燃やすことから直接CO₂が排出されます。社会全体のCO₂排出量を削減するのにあたり、この自動車からの排出削減はCO₂排出削減に直接の効果を与えるのではと期待されるのです。

電気自動車というと新しい技術のように思われるかもしれませんが、初期の自動車ではむしろ電気自動車为主力でした。本格的に自動車が日本上陸したのは、1900年のことと言われています。このとき輸入された自動車は2台で1台は蒸気自動車でした。もうひとつは、後の大正天皇(当時は皇太子)のご成婚を祝って、アメリカ在住の日本人が献納したとされるもので、電気自動車でした。京都では島津製作所・日本電池の社長島津源蔵が通勤に1917年型のデトロイト号という電気自動車を使っていました。

昔の電気自動車のバッテリーは鉛電池ですので、走行距離は限られていました。デトロイト号の場合、40kmだったといいますので、市内の通勤がせいぜいの使い方だったのでしょう。そんなことから、エンジン自動車が主流となり、電気自動車は忘れられてしまいました。

1990年台に環境問題への関心が高まるとともに、燃料消費を抑えたクルマの開発が進められ、1997年に登場したのが、エンジンと電気モーターを組み合わせたハイブリッド車(HEV)で、驚異的な燃費を誇りました。HEVの技術では日本のメーカーが先行していました。欧米のメーカーは、HEVを中途半端な技術だとむしろディーゼル車を推進していました。しかし2015年にディーゼルを推進していたドイツ・メーカーによる不正が明らかになり、それを境としてディーゼル車ブームはすたれてしまいました。そして電動車への注目が高まってきたのです。HEVも短距離ならば電気だけで走りますが、電気配線からの充電はできません。電気配線から充電できるHEVをプラグイン・ハイブリッド(PHEV)とよびます。そしてエンジンを取ってしまい、電気だけで動かすのがEVです。バッテリーだけなのでバッテリーEV(BEV)とよびます。

BEVは走行時にはまったくCO₂を排出しません。エンジンのような騒音もありません。モーターは瞬時にトルクが出ますので凄まじい加速力があります。テスラというアメリカ製のEVを試乗したことがありますが、その加速力には恐怖を感じました。

このようにいいことづくめのようなBEVですが、色々と問題点を抱えています。まずCO₂排出削減については、走行時の排出はゼロカーボンですが、使われる電気のエネルギー源によってカーボンフリーではなくなってしまいます。火力発電による電力で走るのでは、ゼロカーボンとは言えません。製造から廃棄までの排出、すなわちライフサイクルアセスメントでは、必ずしもBEVが最も少ないCO₂排出というわけではありません。

走行可能距離が短かったことが欠点でしたが、最近のEVは大体400km以上走るものが増えてきて実用性は高まっています。そのためには大容量のバッテリーが必要です。たとえば日産のリーフというBEVには60kWhのバッテリーが載せられています。これだけのバッテリーを充電するには時間がかかってしまいます。急速充電器を使っても数十分かかるといえます。また充電できる場所が限られているのも、普及を妨げる要素となっています。

EUは2035年にはエンジン車の販売を禁止するなど、BEV化を推し進めています。BEVがもっとも望ましいのか、世界全体がBEV化するかどうかはまだ様子を見ないとわかりません。



◆おひさま発電所アンケート

きょうとグリーンファンドがおひさま発電所を設置した幼稚園・保育園と共に進めている環境学習のプログラムもかなり充実してきました。すごろくや紙芝居、環境腹話術や自然観察会……。ねらいは、おひさま発電所を設置した意義が伝わっているか、いわゆる「エコ」な園に進化・深化しているか、環境学習がその手助けになっているかということ。プログラムが効果的な内容になっているかは、ずっと気になっていたところですが、そこで今回初めてのこととなりますが、簡単なアンケート調査を試みました。対象はおひさま発電所設置後10年を経過した園3カ所、51名の先生方が答えてくださいました。以下は、その結果です。

問1. 園の「おひさま発電所」の成り立ちを知っていますか？

知っている……16人 少し知っている……12人 知らない……22人 無記名……1人

問2. 「おひさま発電所」(表示盤など)の事を子どもたちに話していますか？

話している……18人 話していない……32人 無記入……1人

問3. エコと思っている自身の行動をあげてください。(複数回答)

- ・エコバックを使用している……11人
- ・ごみの減量関連……10人
- ・節電している……8人
- ・なるべく車に乗らない……7人
- ・節水(つけ置き洗、とぎ汁等)……4人
- ・その他

問4. 子どもたちに環境やエコのことを伝える時に工夫していること、または困っていることは何ですか？

- ・子どもに伝えるのは難しい。環境の話は、あまりしない。
- ・子どもたちにも出来ることエコなことなど取り組めるのはなにか。
- ・わかりやすい言葉にして伝えたり、絵本や紙芝居で伝える。
- ・おひさまで電気を作れることを話している。
- ・その他

設置後10年以上が経過すると、当然のことながら先生方の入れ替わりも多く、おひさま発電所の成り立ちを「知らない」先生の方が多き園もありました。園長先生も先生方に伝えていかななくてはならないと思ってくださったようですが、成り立ちをあまり知らない先生でも、「おひさまが電気をつくってくれるんだよ」と子どもたちに話して下さっているようでした。成り立ちを知らなくても、これだけで十分かと思いますが……。

各園共通の悩みは、「子どもたちに伝えることが難しい」ということでした。絵本や紙芝居を使って工夫されている先生も多かったです。コロナ禍で、ペーパータオル・紙コップなど衛生用品を大量に使用することにジレンマを感じている先生。自動水栓の普及から、園では水道栓を止めない子がおり、先生を悩ませているなど、現場ならではのご苦労も見えてきました。

環境腹話術では、「お熱を出している地球を助けるために、子どもたちができること」をハタさんやしんちゃんが教えてくれます。電気をつけっぱなしにしない、水を出しっぱなしにしない、ごみをなるべく出さない……。できた子どもには、「地球にやさしいことちゃんとできたね」と先生方は言ってあげるとのこと。このほほえましい日常が、子どもたちの励みになって、未来に伝わってほしいなと思います。

「伝える、伝わっていく」ことは「広がっていく」こと。先生から先生へ、先生から子どもたちへ、子どもから家庭へ「エコ」のマインドが広がっていくように、おひさま発電所を広げ、これからも環境学習に工夫を凝らしていきたいと思ひます。



環境への取り組み

・・・ 日勝株式会社 浜野 正治

弊社は、京都議定書が採択された 1997 年より、エネルギーの自給自足を行う考えのもと、本社屋の屋上に太陽光発電設備を設置。その後、随時、弊社所有の施設に太陽光発電設備を設置し、現在では、約 400kW 弱の設備を保有しています。ほぼ弊社の使用電力は、再生可能エネルギーにて調達しております。又、環境の取り組みの一環として、社内に庭を設け、生ごみ処理を自社内で行い、廃材等再利用を行っています。2017 年には、京都市より環境賞を受賞。

その後、自社にとどまらず、京都府に再生可能エネルギーを普及すべく、約 20 年程前より、きょうとグリーンファンドさんとの勉強会の実施や、京都市環境局と共同での環境研修会の実施等行ってきました。近年では、同団体と保育園向けにおひさま発電所を設置すべく、京都府内の保育園と一緒に訪問し、太陽光発電設置の意義や環境学習の推進を唱えて来ました。その結果、3 年前には、共同案件で山科にある安朱保育園で太陽光発電設備を設置致しました。

又、昨年度より、京都市指定の避難所（福祉施設等）向けに共同で、京都府の再エネ補助金を活用した BCP 対策として太陽光発電設備、蓄電池の設置を提案中です。

今後も、きょうとグリーンファンドさんと京都の再生可能エネルギー推進を行い、環境にやさしい街作りを目指していきたいと思っています。

Topic

京都市出前トーク「福祉避難所を知っていますか?～役割・入所の流れ～」

京都市の「福祉避難所」担当者にお話を聞きました。

気候災害や地震などが多発している今ですが、「福祉避難所」についてはあまり知られていないようです。東日本大震災で被災された住民に対する内閣府のアンケート調査でも、「福祉避難所がどのようなものなのか、自分が住んでいる地域のどこにあるかも知らなかった」という回答が一般の方で 76%、配慮が必要な方で 69%に上っていたそうです。

「福祉避難所」とは、一般に避難所では避難生活が困難な、配慮が必要な方が生活する施設となっており、京都市では設備が整った社会福祉施設など（297 施設 / 2021.9.15 時点）が事前に指定されています。

事前指定の社会福祉施設では、運営ガイドラインに沿って平常時からの受け入れ準備や災害時の避難所の円滑な運営が求められています。平常時の取り組みに関するチェックリストでは職員の体制、受け入れのための事前調整、施設・備品の整備・備蓄物質など、災害時では初動期・展開期・安定期と時間の経過に沿って多岐にわたるチェック項目が並んでいます。行き届いているなあ、という印象を持ちましたが、これらを誰が担うのか、心配にもなりました。事前指定されている施設は、日ごろの業務で手いっぱいなの所がほとんどでしょう。（う～ん、絵に描いた餅にならないか）そして、私の目に留まったチェック項目は「停電に備えて、非常用電源は確保されていますか」（災害時の長期停電は確か 2 週間にも及んだ・・・）「送風・換気・冷暖房の空調設備が確保されていますか」（電気が必要なのでは?）「ラジオ・テレビなどの情報機器が用意されていますか」（ラジオはともかくテレビは電気がないと・・・。スマホも充電が必要だし）

「福祉避難所」には太陽光発電の設備があれば対応もだいぶ変わってくるのではないかと思います。ぜひ「福祉避難所」に太陽光発電設備の設置を広げる必要があると考えるのですが、残念ながら、京都市の担当者も、施設側も関心は大変低いのが現状です。

編集後記

- ・EVと並んで、洋上風力もにわかに新聞紙面を賑わすようになりましたね。（K.M）
- ・コロナの影響で、社会のありようが確実に変わってきています。そして、気候変動の影響でも確実に変わるのでしょね。地球全体が…。(K.O)
- ・またコロナ感染者が多くなり心配です。どうか、子どもたちの節目のために卒園・卒業式がちゃんと出来ますように!(Y.F)
- ・昨年、琵琶湖の水位が普段は水中にある坂本城の石垣後が見えるくらい下がりましたが、現在は0cmに持ち直しました。周りの山にも雪が積もって一安心です。自然の恵みに感謝です。(T.Y)
- ・外出先で太陽光パネルに目が行きます。以前でしたら屋根の上に設置されているのが普通でしたが、最近見かけた物は建物の外壁、橋の太陽光ルーフ、駅前のロータリーの柵にと変化してますね。(Y.M)
- ・気候危機の時代に時代錯誤的な北陸新幹線京都延伸計画が進められようとしている。100km以上がトンネルという計画で、地下水や残土処理が気になる。(T.H)
- ・コロナに振り回されて2年、なかなか終わりが見えません。企画していたセミナーも3回延期、次こそはと準備していますが…。(S.K)

《 ぐりふぁん日誌 》

<2021>

7/2 自然エネルギー学校検討会議／オンライン
 7/10 自然エネルギー学校・京都2021第2回
 7/20 山城福祉会宇治川福祉の園訪問
 7/29 深草子どもの家訪問
 8/7 自然エネルギー学校・京都2021第3回
 8/18 自然エネルギー学校検討会議／オンライン
 8/23 京都聖母学院幼稚園訪問
 8/25 京都府地球温暖化防止活動推進連絡調整会議
 ／オンライン
 8/27 京都聖母学院幼稚園訪問
 8/28 自然エネルギー学校・京都2021第4回
 9/1 Chery's Hugおひさま発電所設置協力金返還
 9/3 市民再エネプロジェクトin京都2021ミーティング
 ／オンライン
 9/15 自然エネルギー学校検討会議／オンライン
 9/17 感謝状贈呈／自然幼稚園
 9/25 自然エネルギー学校・京都2021第5回
 エコ京都21登録更新
 9/30 事務所賃貸契約更新
 10/16 自然観察会(上鳥羽北部いきセン)／上調子公園

10/26 自然観察会(大宮保育園)／府立植物園
 11/2 京都府再エネ導入促進支援団体登録更新
 11/4 環境腹話術／聖光幼稚園
 11/6 自然観察会(みょうりんえん)／京都御苑
 11/13 エコ体験イベント参加／上鳥羽北部いきセン
 11/15 うたの・ひこばえ児童館訪問
 11/17 京都市出前トーク「福祉避難所を知っていますか?」
 開催／オンライン併用
 11/24 環境腹話術／みょうりんえん
 11/26 自然観察会(おおやけこども園)／京都御苑
 うたの・ひこばえ児童館訪問
 12/8 第135回理事会／オンライン併用
 12/10 防災セミナー打合せ(上鳥羽北部いきセン)／オンライン
 12/17 市民再エネプロジェクトin京都2021ミーティング
 ／オンライン

<2022>

1/19 ヒアリング(京都市が行う環境教育・学習に係る取組状
 況等の調査)サンワコン株式会社／オンライン
 1/20 防災セミナー打合せ／上鳥羽北部いきセン
 1/28 自然エネルギー学校検討会議／オンライン

□ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によって
 ささえられています。
 おひさま基金へのご寄付は ゆうちよ振替をご利用下さい。

ゆうちょ銀行振替口座番号:00930-6-157817
 加入者名:きょうとグリーンファンド

★2020年4月1日付で京都市から認定NPO法人として再認定されました。
 認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数

正会員 35 賛助会員 24
 法人会員 6 2022/2現在



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角堺町21 事務機のウエダビル206
 TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org
 URL ; http://www.kyoto-gf.org (火～金 13:00～16:00)

